

林業相談

クロミノウグイスカグラ (ハスカップ) の 特性と増殖法

問 ハスカップを自分の庭で栽培して見たいのですが、その特性と増殖法を教えてください。

(苫小牧市 M生)

答 ハスカップはスイカズラ科で、和名はクロミノウグイスカグラという長い名前です。北海道では、ハスカップの名称で一般に親しまれております。ハスカップは、アイヌ名のハシカブに由来するもので、枝条の上に漿果の沢山なる木の意味です。これらを材料とした菓子類は沢山市販され、また、果実酒、果汁としても利用されております。

形態 本州中部以北、北海道、東シベリア等に分布する小灌木です。5月中旬頃、黄白色をしたラッパ状のひかえめな花をつけ、7月初め頃、濃紫色の小指先程の甘酢っぱい漿果をつけます。天然では、火山性土壌に多く生育しますが、移植をしても土壌に対する適応力は強いようです。

増殖方法 実生とさし木が考えられます。

実生法は7月初め頃、漿果が緑色から濃紫色に変わってから採取し、これを圧搾して中の種子を取り出します。漿果の大きさ、漿果の中にある種子の大きさ、漿果1粒当たりの種子の数は、環境やその木によって異なりますが、勇払原野で無作為に採取した漿果の重さは100個の平均値で1個当たり0.75g、最も重いものでは1.3gでした。1つの漿果の中に入っている種子数は、8～22粒と大きな差があります。また、100gの漿果から1.3g(乾燥重)の種子を採取できました。採取した種子は乾燥させたまま保存し、その秋か翌春、まきつけます。1gの粒数は800～900粒位ですので、発芽率を50% (当場の例では70%) としても、㎡当たりまきつけ量は15g位でよろしいでしょう。まきつけ当年は枝が余り分岐せず、通直な15～20cm位の苗木に生長します。2年目には床替しますが、枝の分岐が多くなり、苗木は30～40cm位になります。そして、3年目では6割位の木が結実を始めます。結実するためには、苗木全体に光が当たる必要がありますので、十分に空間を作って下さい。

さし木の場合は、冬期間、穂木を採取保存して、5月頃、地温が上昇してからさしつける休眠枝ざしと、7月上旬、当年伸長した枝をさしつける緑枝ざしがあります。穂木を保存する必要のない緑枝ざしの方が一般的でしょう。昭和48年に当場で行なった例では、用土がカヌマ土の場合90%、追分産火山砂では75%と、良い活着率を示しております。しかし2年目以降の生育を見ますと、実生苗より幾分劣り、また、樹勢も弱いようです。特に優良個体を保存したいという以外は、実生苗の方が良いでしょう。



最近、ハスカップを庭木としてはもちろん、特用林産物の1つとして栽培しようという傾向、もありますが、このような場合は、漿果の大きなもの、味の良いもの、豊産性のもの等、育種的な面から吟味しなければなりません。また、ハスカップは寒さにも強く、全道各地で栽培が可能と思われますので、今後、育種面はもちろんのこと、肥培および管理技術等、各方面から検討されるべきものでしょう。

(樹芸樹木科 関本孝昭)